

【緑地を楽しむ本】

『どんぐりを おとしたのは だれ?』（かがくのとも 9月号）

高柳芳恵 ぶん はた こうしろう え

福音館書店



どんぐりに卵を産みつけて、枝ごと切り落とすハイロチョッキリ。その1年を観察した様子が変わりやすく丁寧に描かれています。作者はやままゆ連にもいらっしゃる高柳さん。

緑地に親しんでいる方たちにとっては、おなじみの「現象」で、おなじみの虫なのでしょうが、私の身近にいる人の多くはこの虫の存在を知りませんでした。この本を見せると、「えーっ！風で落ちたものだと思ってた。」という答えがほとんどでした。

でも、本当に不思議です。「どうして？」と考

えても、簡単な算数のようには答えが出ない不思議さ。ハイロチョッキリの子孫を残そうというその一途さに、そのエネルギーにただただ驚くばかりです。「かがくのとも」には、解説の付録がついていますが、その中にチョッキリが1か月かけて108個ものどんぐりに、1回1時間以上もかけて産卵したとありました。小さな虫のエネルギーに驚いたとありますが、私は、それを観察した高柳さんの好奇心のエネルギーにも驚きました。その好奇心エネルギーがああ楽しい自然観察会につながるんだなあと理解した次第です。

出てくる女の子が、最後には高柳さんご本人に見えてきます。

（遠藤）